

【古典文法 助動詞「じ・まじ」識別①】

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① 昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、（伊勢物語）
- ② 雨雲は落ちかかるばかりに暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語）
- ③ それをはらせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求めはべるなり。（枕草子）
- ④ 「よみはよみ候ひなん。されど、恐れにて候へば、え申し候はじ。」と奏しければ、（宇治拾遺物語）
- ⑤ 帰り入らせ給はむことはあるまじく思ひて、しか申させ給ひけるとぞ。（大鏡）
- ⑥ 絵など取り出でて見せさせ給ふを、手にてもえさし出づまじう、わりなし。（枕草子）
- ⑦ 心もとながりて、「枕とて草ひき結ぶこともせじ秋の夜とだに頼まれなくに」と詠みける。（伊勢物語）
- ⑧ 絵など取り出でて見せさせ給ふを、手にてもえさし出づまじうわりなし。（枕草子）
- ⑨ 俊成卿、「さることあるらん。その人ならば苦しかるまじ。入れ申せ。」とて、（平家物語）
- ⑩ いとあてに、けけしうおはしますなるは。昔のやうにはえしもあらじ。」など言へば、（和泉式部日記）
- ⑪ 聞こえやる方なくてぞわびあへりける。「しばし人に知らせじ」と君ものたまひ、（源氏物語）
- ⑫ 十三代にあひたてまつりて侍るなり。けしうはさぶらはぬ年なりな。まことと思さじ。（大鏡）
- ⑬ 身をえうなきものに思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。（伊勢物語）
- ⑭ ある人の、「月ばかりおもしろきものはあらじ。」と言ひしに、また一人、（徒然草）
- ⑮ この小家のうちより、「参らんと思へど、まだ目のあかねば、え参るまじく」といへば、（宇治拾遺物語）

⑪	⑥	①
⑫	⑦	②
⑬	⑧	③
⑭	⑨	④
⑮	⑩	⑤

【古典文法 助動詞「たり」識別①】解答

問、次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- ① 昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、（伊勢物語）
- ② 雨雲は落ちかかるばかりに暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語）
- ③ それをはらせて参らせむとするに、おぼろけの紙はえ張るまじければ、求めはべるなり。（枕草子）
- ④ 「よみはよみ候ひなん。されど、恐れにて候へば、え申し候はじ。」と奏しければ、（宇治拾遺物語）
- ⑤ 帰り入らせ給はむことはあるまじく思ひて、しか申させ給ひけるとぞ。（大鏡）
- ⑥ 絵など取り出でて見せさせ給ふを、手にてもえさし出づまじう、わりなし。（枕草子）
- ⑦ 心もとながりて、「枕とて草ひき結ぶこともせじ秋の夜とだに頼まれなくに」と詠みける。（伊勢物語）
- ⑧ 絵など取り出でて見せさせ給ふを、手にてもえさし出づまじうわりなし。（枕草子）
- ⑨ 俊成卿、「さることあるらん。その人ならば苦しかるまじ。入れ申せ。」とて、（平家物語）
- ⑩ いとあてに、けけしうおはしますなるは。昔のやうにはえしもあらじ。」など言へば、（和泉式部日記）
- ⑪ 聞こえやる方なくてぞわびあへりける。「しばし人に知らせじ」と君ものたまひ、（源氏物語）
- ⑫ 十三代にあひたてまつりて侍るなり。けしうはさぶらはぬ年なりな。まことと思さじ。（大鏡）
- ⑬ 身をえうなきものに思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。（伊勢物語）
- ⑭ ある人の、「月ばかりおもしろきものはあらじ。」と言ひしに、また一人、（徒然草）
- ⑮ この小家のうちより、「参らんと思へど、まだ目のあかねば、え参るまじく」といへば、（宇治拾遺物語）

① 不可能	② 打消推量	③ 不可能	④ 打消意志	⑤ 打消当然
⑥ 打消推量	⑦ 打消意志	⑧ 不可能	⑨ 打消推量	⑩ 打消推量
⑪ 打消意志	⑫ 打消推量	⑬ 打消推量	⑭ 打消推量	⑮ 不可能